| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 授業科目 | 保育内容「環境」の指導法(2 年制コース) | | | | | 実務家教員担当科目 | - |
| 単位 | 1 | 履修 | 選択 | 開講年次 | 1 | 開講時期 | 後期 |
| 担当教員 | 末嵜　雅美 | | | | | | |
| 授業概要 | 子どもは、身の回りの様々な環境に対し好奇心や探求心をもって関わるが、そこでの様々な経験や遊びについて考える。具体的には、どのような環境に子どもが関わって活動を生み出すのか、幼児期にふさわしい生活を送るための環境とはどのようなものか、子どもの発達における環境の意味とは何かについて明らかにし、保育実践に活かせる技術を身につける。<br>なおこの授業では実技を含めた授業も行う。実技は屋内外を予定している。屋外での実技については天候などの条件で内容を変更する場合がある。授業後半では、グループによる模擬保育を予定している。 | | | | | | |
| 授業形態 | 演習 | | | | 授業方法 | グループディスカッション、プレゼンテーション（模擬保育）、フィールドワークでの実技を含む | |

| 学生が達成すべき行動目標 | |
|---|---|
| 標準的レベル | 1．保育における領域「環境」のねらい及び内容を理解し、幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。<br>2．幼稚園教育・保育所保育における評価の考え方を理解し、領域「環境」において、乳幼児が経験し身につけていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。<br>3．幼児の認識や思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。<br>4．領域「環境」の特性や幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法を理解し、保育の構想や指導に活かすことができる技術を身につける。<br>5．環境を通した遊びが、子どもの発達にどのような影響を与えるのか、どのような環境設定がふさわしいかについて理解し、環境構成を含めて実践できるようになる。<br>6．遊びの楽しさを伝えられる保育者になる |
| 理想的レベル | 1. 子どもの発達と環境の関わりについて熟知し、保育活動において、育ちを促す環境設定を自発的につくり出すことができる<br>2. 環境遊びへの関心を高め、幼児期にふさわしい科学遊びや野外遊びなどの技術を身につけ、実践できる |

| 評価方法・評価割合 | | |
|---|---|---|
| 評価方法 | 評価割合（数値） | 備考 |
| 試験 | | |
| 小テスト | | |
| レポート | 30% | |
| 発表（口頭、プレゼンテーション） | 25% | |
| レポート外の提出物 | 35% | 実技授業での作品の提出 |
| その他 | 10% | 質問やコメントなど積極的な授業態度 |

| カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| DP1 | ○ | DP2 | - | DP3 | - | DP4 | - | DP5 | ○ | ナンバリング | CH21309J |

| 学習課題（予習・復習） | 1 回の学習目安（時間） |
|---|---|
| 前期授業「子どもと環境」のノートやプリントを読み返しておくこと。 | 1 |

授業計画

| | |
|---|---|
| 第 1 回 | オリエンテーション<br>＊この授業の進め方について<br>＊5 領域における「環境」について、前期授業「子どもと環境」の振り返り<br>＊環境を通した遊びとは<br>　自然遊び・科学遊び・構成遊びなどの様々な遊びと子どもの発達 |
| 第 2 回 | 主体的な遊びを促す環境構成とは（グループディスカッション）<br>　映像資料から環境と遊びの関連を考える |
| 第 3 回 | 環境遊び・子どもと自然（１）<br>　五感を育てる遊び・遊びの意義<br>　遊びを促すファシリテーターの役割 |
| 第 4 回 | 環境遊び・子どもと自然（２）フィールドワーク<br>　屋外でできる自然を用いた簡単な遊びの技術を身につける |
| 第 5 回 | 環境遊び・子どもと自然（３）フィールドワーク<br>　季節遊び・野外遊びを楽しむ |
| 第 6 回 | 環境遊び・科学遊び（１）<br>　保育現場における科学遊びと子どもの思考力の育ち |
| 第 7 回 | 環境遊び・科学遊び（２）<br>　身近な材料を使って科学遊びを行う |
| 第 8 回 | 環境遊び・構成遊びと図形や数<br>　積み木・折り紙・ブロック遊びが引き出す発達とは<br>　図形や数に触れる遊び<br>　構成遊びの面白さ<br>模擬保育の担当テーマ決定 |
| 第 9 回 | 保育の環境構成を記録する<br>　実習記録の「環境の構成」をとらえる視点 |
| 第 10 回 | 自然を生かした保育方法－里山保育とは<br>　「里山保育」の映像視聴<br>　子どもの育ちと自然環境との関わり |
| 第 11 回 | 「森のようちえん」とは<br>園外保育・野外保育における子どもの安全への配慮について |
| 第 12 回 | 模擬保育（1）自然遊びに関わる活動 |
| 第 13 回 | 模擬保育（2）科学遊びに関わる内容 |
| 第 14 回 | 模擬保育（3）構成遊びに関わる内容 |
| 第 15 回 | まとめ |
| テキスト | 「幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領」 |
| 参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介 | 初回の授業には「幼稚園教育要領・保育所保育指針・認定こども園教育・保育要領」を持参すること。 |

| | |
|---|---|
| 課題に対するフィードバックの方法 | ほぼ毎回ワークシート等の復習課題が出るので、自宅学習できちんと行い、〆切を守って提出しましょう。なお、欠席した授業回のワークシートは再配布しないが、授業レジュメは配布するので申し出ること。ワークシートについて、一部は翌週に返却し振り返りを行ってもらいます。他のシートは授業期間終了後に返却します。 |
| 学生へのメッセージ・コメント | 保育内容「環境」に関わる演習中心の授業です。子どもを取り巻く環境や、園の環境（人的・物的）にどのような配慮がなされているかについて、普段から関心を持っておきましょう。環境遊びを楽しめる意識と相応しい格好などを身につけられるよう授業内で指導を行います。授業の後半にはグループによる模擬保育を行います。それぞれ与えられたテーマを話し合い、十分な準備をしておいてください。 |